

急成長するGLP-1/GIP関連薬とは？ 肥満症・糖尿病対策の最新知見

- ◆ インクレチンとは
- ◆ 糖尿病とインクレチン関連薬
- ◆ 肥満症薬としてのGLP-1受容体作動薬
- ◆ GLP-1の分泌を促す生活習慣 etc.

要事前申込

参加無料

2025年12月10日（水）

開催： 15：00 ～ 16：30 （ハイブリッド開催）
現地会場： 日本橋ライフサイエンスビル
1006会議室（先着20名）
オンライン： Teams（Webinar）使用
演者： IBL 営業部 学術担当 富田 正浩
参加登録： <https://bit.ly/47ruvb0>

15：00 ～ オープニング

15：05 ～ 論文紹介

16：00 ～ 質疑応答

16：20 ～ 受託サービスのご紹介

16：25 ～ クロージング

参加登録



IBL News



株式会社 免疫生物研究所（営業部）

Immuno-Biological Laboratories Co., Ltd.

〒375-0005 群馬県藤岡市中字東田1091-1

営業部Tel 0274-50-8666 Email : do-event@ibl-japan.co.jp

インクレチンおよびインクレチン関連薬とは

インクレチンは、消化管から分泌されるホルモンであり、膵臓の β 細胞に働き、グルコース濃度依存的にインスリン分泌を促進することで血糖値の低下に寄与します。この作用機序に基づき、DPP-4阻害薬およびGLP-1受容体作動薬といったインクレチン関連薬が開発され、2型糖尿病治療に広く用いられるようになりました。

DPP-4阻害薬とGLP-1受容体作動薬

DPP-4阻害薬は低血糖を引き起こすリスクが低い2型糖尿病治療薬として、多くの患者に処方されています。また、GLP-1受容体作動薬は、心血管関連疾患抑制効果および腎臓保護効果が報告されていることから、心臓や腎臓に合併症を有する2型糖尿病患者に対する治療選択肢として推奨されています。

肥満症対策としてのGLP-1

GLP-1受容体作動薬は、胃や中枢に作用して、満腹感の亢進および食欲の抑制をもたらすことから、抗肥満症薬としての適応も認可されています。顕著な体重減少効果により市場規模は急速に拡大する一方で、自由診療を通じた保険外適用での使用が社会的課題としても取り上げられています。

一方、GLP-1の分泌量は、食事、サプリメント、運動などでも増加が期待できることから、生活習慣の見直しによるアプローチにも注目が集まっています。

本セミナーでは、既発表の論文をひも解くことにより、インクレチンをめぐる最新の知見を深掘りします。ご関心をお持ちの皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。

■申込方法

登録フォームまたは電子メールにてお申し込みください。

【参加登録】 <https://bit.ly/47ruvb0>

【電子メール】宛先: do-event@ibl-japan.co.jp

【必須】①ご氏名 ②参加会場（現地orオンライン）

【任意】③ご所属・部署 ④電話番号

申込後、事務局から登録完了のご連絡をいたします。

参加登録



一緒に探しませんか
その扉を開く『鍵』

「抗体」を通じて、世界で難病に苦しむ人々が、
一日も早く、病気を克服し、明るく豊かな暮らしを
営めるよう、社会に貢献いたします。

